

老松

へそもそも松の目出度きこと 萬木にすぐれ十八公のよそおい 千
年の緑をなして古今の色をみす へ秦の始皇の御狩のとき 天にわか
にかきくもり 大雨しきりに降りしかば 帝雨をしのがんと 小松の
陰へ寄り給う へこの松たちまち大木となり 枝を垂れ葉を重ねて
木の間隙間をふさぎてその雨をもらさざりしかば へ帝太夫という
爵を 贈りくだし給いてより 松を太夫と申すとかや へかように
目出度き 松が枝に 巢をくう田鶴の齡をば 君にささげて御子
孫は 亀の 萬劫ふる川の 流れ絶えせぬ金銀珠玉 どう々々々ど
つと御蔵の うちへ納まる家こそ目出度けれ